「あまみずグリーンインフラ検討委員会」（第２回）
議事要旨

■日時：令和７年２月４日（火）　　１３時１５分～１５時１５分
■場所：東京都庁第二本庁舎１０階　一般会議室２１２

検討委員会での主な意見

○先行実施事業・普及啓発・ロードマップ等について

・　今回整備された一部のレインガーデンにて、水位が分かるように石の高さに変化を持たせており、このような工夫が GI 施設に関心を高めるために有効。
・　子どもの教育や関心を高めるため、GI 施設を遊び場として普及啓発出来ると理想的。
・　補助事業での取組事例をプラットフォームの場にて報告等で共有し、自治体同士や都に対して相談しやすい環境の構築が重要。
・　雨水しみこみアンバサダーの展開について、事業者の社会貢献（CSR）に加え、収益事業に繋がると思わせることで取組姿勢が変わると思う。
・　東京グリーンビズに本検討委員会の結果の反映を見据えていくこと。

⇒　本項目の報告について全委員が了承した。

○技術面へのアプローチについて

（浸透能力）
・　浸透能力は、目詰まりの影響が大きく適正な維持管理が前提での影響係数 0.9 である。
・　区部（東部低地）に参考値を示す方向で検討されているのは良い。なお、粘土層等の土質区分に応じた浸透不適地を現地確認して、除外することも重要。
・　GI 施設に対してモニタリングを実施し、その結果を基に維持管理について評価することが重要。

（整備場所）
・　整備地域に応じて、どのような GI 施設を採用することが望ましいか提示していくべき。
・　再開発事業等での実装を検討される際に、総合設計制度等への適用を見据えて、制度に関係する計画、指針、ガイドライン等を整理し、リスト化していくべき。
・　検討のモデルスケール（面積）を、段階的に拡大して検証を進めるべき。

（GI 施設構造）
・　建物や敷地の中で色々なＧＩ施設を組み合わせ、全体としてとらえることが重要。
・　GI 施設には、多様な作り方や形式があるため、効果の定量評価・汎用化のためには、模式化したもので検討を進めることが重要。
・　従来の浸透施設における充填材は“礫”が一般的であったが、近年、製品開発が進みつつあることを視野に入れることが重要。

（スタートアップ協働プロジェクト）
・　GI 施設の設置評価手法のマップは、良い取組であるため、ハザードマップ等の既存のものと重ねて合わせて可視化を進めて頂きたい。なお、同様の評価手法と競わせ、より良い検討を行って欲しい。

・　浸透能に関する複数の情報をまとめ、検討されているマップにて一目で分かる形にすることが重要。

○政策面のアプローチについて

（アンケート結果）

・　認知度が低いが、事業推進に 7 割が好意的であるため、積極的な施策展開を進めて頂きたい。

・　事業者が費用対効果を感じている理由等を確認し、施策検討に役立て頂きたい。

・　レインガーデン等の整備に関心・意欲が高いが、具体的な費用の不透明感等が課題となっている。そのため、モデルケースや助成制度等があると実装拡大が期待できる。その際、オーナーシップを持ってもらうことが持続的な手入れ（適切な管理）につながると思う。

・　アンケート調査は、今後も継続的に実施し、取組の成果を見えるようにして頂きたい。

（コンセプトブック）

・　本検討委員会の名称でもある「あまみずグリーンインフラ」という用語を丁寧に説明することが重要。

・　取組を進めている自治体の取組事例等を掲載し、自治体職員が引用や参照をしたくなる冊子に。

（その他）

・　東京グリーンビズの WEB との連携等を行い、取組成果を効果的に PR 頂きたい。

〔※ GI ・・・ 雨水流出抑制に資するグリーンインフラ〕

以上